



2016年8月31日

国立研究開発法人建築研究所国際地震工学センター

第136号

〒305-0802 茨城県つくば市立原1 TEL 029-879-0678 FAX 029-864-6777

今月の話題

- 第3回中南米地震工学研修 閉講式
- 第3回中南米地震工学研修在外研修における講義と構造実験
- 最終発表会が行われました
- ニカラグアの元研修生が本を出版しました
- レスポンスシート

研修 データベース

IISEENET(地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

第3回中南米地震工学研修閉講式

国際地震工学センター 上席研究員 犬飼 瑞郎



閉講式にて

第3回中南米地震工学研修の閉講式が7月22日にエルサルバドルの首都サンサルバドルのクラウンプラザホテルのホールにて開催されました。閉講式では、次の方々にご列席いただきました。

エドガー・ペーニャ教授(エルサルバドル大学(UES)工学部 副学部長)、パトリシア・デ・ハズボン教授(ホセ・シメオン・カニャス中米大学(UCA)、機械構造学部主任)、

オスカー・ヘルナンデス氏(エルサルバドル住宅都市開発庁長官)、藤城一雄氏(JICAエルサルバドル事務所長)。

このうち、エドガー・ペーニャ教授には、司会をしていただきました。

UCAの教授であるアドルフォ・ラモス氏(2009-2010地震工学研修修了)とモニカ・グティエレス氏(2008-2009地震工学研修修了)のお二方は、UCAにて実大構造実験を担当され、閉講式に、ラモス氏が参加してくださいました。また、UESでプリズム試験体実験および壁試験体実験を担当されているカルロス・エスコバル氏、マニエル・グティエレス氏も、研修中、お元気でした。

5月18日からの全研修を修了した8か国16名の研修生及び7月11日からのサンサルバドルでの研修に参加した10名のUESまたはUCAの大学院生とともに

地震データベース

2011年3月11日東北地方
太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)



論文募集

ISEE Bulletin は、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい

に、閉講式は幸せで心温まる時間となりました。現地での研修実現のために尽力いただきましたすべての方々に感謝申し上げます。

研修参加者全員が研修に満足し、学習したことや経験したことを、自国で普及してくれることを願っています。

最後に、サンサルバドルを一望出来る見晴台に位置するレストランでサルバドル料理を食べられたことは、大変有意義な経験であったことを、申し添えます。

講義で使用する言語はスペイン語です。より詳細の情報が欲しい場合は、遠慮なく ISEE にお問い合わせください。

第3回中南米地震工学研修在外研修における講義と構造実験

国際地震工学センター研究員 加藤 博人



写真1 コンクリートブロック壁の実験終了後(UCA)

中南米地震工学研修(ニューズレターNo.133、No.134、No.135 参照)の在外補完研修が、7月11日(月)~22(金)の日程でエルサルバドル共和国のサンサルバドル市にある国立エルサルバドル大学(UES)と、私立ホセ・シメオン・カニャス中米大学(UCA)を主な会場として行われました。研修では、中南米地域で広く普及している組積造構造の耐震性能向上に焦点を絞った講義や実験が実施されました。本邦研修から参加した16名に加えて、今年もUESおよびUCAの大学生5名ずつが追加で参加し、合計26名が熱心に研修を受けました。約2ヶ月に及ぶ日本での研修を終えた16名の研修生は、それぞれの母国に近づいたこととスペイン語圏に戻って少しほっとした感じもあるのでしょうか、生き生きとした様子も感じられました。

研修では、現地の建築材料を用いた構造実験への参加を中心として、組積造の構造性能に係わる講義や、各国の枠組組積造の基準などについて活発な情報交換が行われました。



楽しむのは今です。

連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国での活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお願いします。

iiseenews@kenken.go.jp
http://iisee.kenken.go.jp

写真1は、レンガを用いた枠組組積造実大壁試験体の実験終了後(UCA)の様子です。研修生の皆さんは大変熱心に実験に取り組み、質疑も活発に行われました。



写真2 プリズム試験体の製作(UES)

また、エルサルバドル公共事業省、普及住宅開発財団等の共同プロジェクトにより建設されたモデル住宅の視察も、JICA エルサルバドル事務所のご協力により行われました。

本研修で講義や実験を担当された大学の先生は、国際地震工学研修の卒業生や JICA の“TAISHIN Project”のカウンターパートが多く、これまでの国際協力の成果が実感されるものでした。

写真2は、研修生が4班に別れてプリズム試験体を製作しているところです。約1週間の養生期間を経て加力試験を行い、強度を競いました。

傾斜台を用いたアドベ造壁の破壊実験ではマスコミの取材もあり(写真3)、テレビニュースで放映されました。このような技術協力を、広く一般市民に理解して貰うことも重要です。



写真3 アドベ造壁の傾斜台実験後のマスコミ取材(UES)

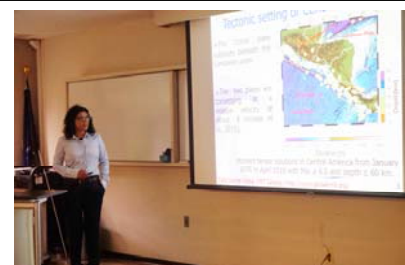
研修員による最終発表会が行われました

国際地震工学センター 管理室長 山下 崇

8月22日から23日にかけて、通年研修の研修員による、最終発表会が国際地震工学センターの講堂で行われました。これは、修士論文の作成と並行して行われる研修上の重要なプロセスで、一人一人壇上に立ち指導教官や他の研修員の前で研究成果をプレゼンテーションしました。



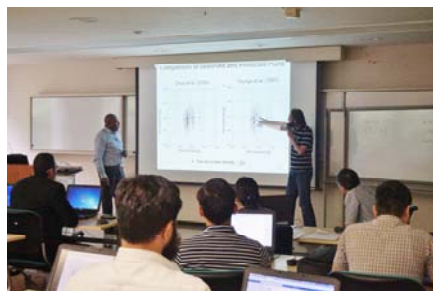
キルギスのサギの発表



ニカラグアのマルタの発表

バックナンバーは
下記をご覧下さい。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>



パプアニューギニアのフェリックス(左)の発表に質問するアルジェリアのアマール



バングラデッシュのガジの発表

ニカラグアの元研修生が本を出版しました

国際地震工学センター 上席研究員 小豆畑 達哉

デルビイン・アブディエル・マルチネスさんによる特別な一冊の本を紹介したいと思います。本の著者は、ニカラグアからの過去の国地研修生です。彼は、2011年に耐震工学コースの修了証明書を取得しました。

本のタイトルは、「地球物理学的手法を用いた地盤の動的な分類(適用例)」です。彼は、本の中で、二つの地球物理学的手法(固有振動と地震波屈折)とその適用方法を述べています。また、本の紹介として、「地盤の動的挙動に関するより良い理解は、いかに、また、どこにより安全な建物を建てるかについて、より信頼性の高い情報を与えるだろう。耐震設計は、地震中に生じる加速度の程度を考える必要があるが、地盤の動的な特性は同様に考慮すべき重要なパラメーターである」と語っています。

我々は彼の研究活動の状況を知ることができ大変嬉しく思っております。本は、「アマゾン」のようなインターネット書店で入手することができます。地盤工学に興味のある方は、すぐにでもチェックしてみてください。



レスポンスシート

元研修生のみなさん、レスポンスシートは提出されましたか？

IISEEのホームページからレスポンスシートがダウンロードできるようになりました。<http://iisee.kenken.go.jp/japanese/?p=down>

レスポンスシートの記入は1分もかかりません。

まだお送りいただいていない方はぜひご協力をお願いいたします。

締切は8月31日水曜日です。どうぞよろしくお願いいたします。